

平成28年度 五泉市外国語活動部 活動報告

部長 若林 望都

1 研究主題

新教材の活用法について研修を深める。

2 研究の概要

指導案検討会及び研究授業、協議会や情報交換会を実施し、授業づくりについての研修を行った。各校での取り組みについて情報交換を行ったり、学級担任一人で行う外国語活動ではどのような手立てが有効であるか検討したりした。

3 研究の実際

(1) 指導案検討会(6月)

単元は、『Hi, friends! 1』の lesson5 「What do you like?」である。小坂井教諭は、買い物しながら自然に英語を話さずにはいられない状況設定をした。あえて売値は出さず、お客が値段を尋ねなければならないルールにし、コミュニケーションの活性化を図った。英語での読み聞かせに適している絵本や興味・関心を高めるゲームについても検討した。関連して、朝の会などでできる外国語活動についても話し合われた。

(2) 研究授業(9月) 授業者:小坂井淑子教諭

ウォーミングアップでは、児童に「日付・曜日・天気・今日の気分」を聞いた後、「ボールゲーム」「エッグライトゲーム」などを行った。カラーボールやエッグライト、読み聞かせの本など、児童の興味関心を惹きつける魅力的な学習道具を用いて、効果的に英語に触れさせることができていた。



ウォーミングアップの終わりには、「What color do you like?」のチャンツを行った。本時の「買い物ゲーム」は、ペアになって店の人とお客の役に分かれ、Tシャツを売ったり買ったりするゲームである。あえて売値は出さず、お客役の児童が値段を尋ねなければならないルールにした。売値を出さないという不十分な情報(インフォメーションギャップ)により、お客役の児童と店の人役の児童のコミュニケーションの活性化を図ることができた。ゲームの中で新しい表現を知り、コミュニケーションを楽しむことを、意図的にスパイラルにくり返しており、児童は安心して学習していた。

(3) 情報交換会(10月)

日ごろ授業で心掛けていることや、今までの実践で効果のあったものなどについて情報交換した。外国語活動では、絵本やグラフィックなど、実際に児童が見たり触ったりできる教材の選定や、児童の興味・関心を引く教材の開発が必要である。そのためには、教師が今までの指導で有効だと感じたことや経験を蓄積していくことが大切である。

2020年の英語の教科化についても、授業の進め方や内容について積極的に意見交換した。

4 成果と課題

研究授業や情報交換会を通して、児童が楽しみながら必要感をもってチャンツやゲームを行ったり、五感を使って外国語に触れたりすることで、コミュニケーション能力を高めることにつながるということが確かめられた。2020年の英語の教科化に向け、これからも研修や実践を積んでいく必要性を強く感じた。